

 Victor

ステレオ プリアンプ

Laboratory **P-L10**

取扱説明書



— お買いあげありがとうございます —

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
お読みになったあとは、大切に保存してください。

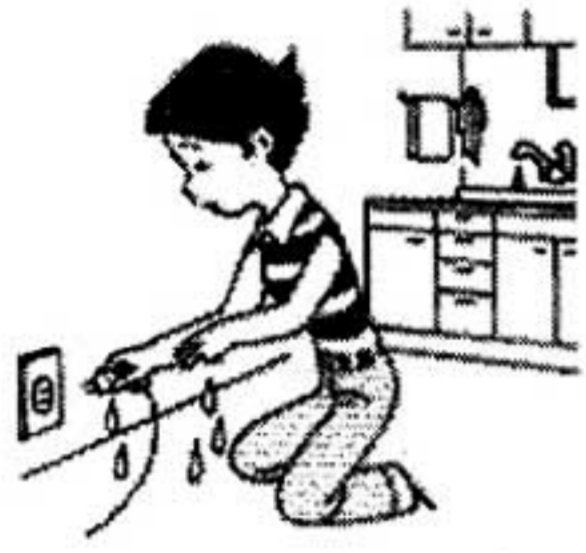
# ご注意

## ■ 安全上の注意

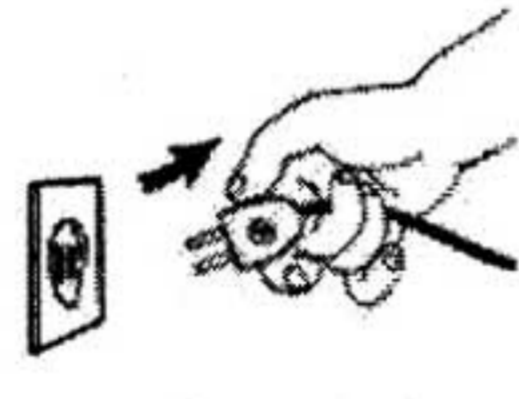
- ・電源電圧は  
交流 100V をご使用ください。
- ・電源周波数は  
50 Hz 地域 または 60 Hz 地域でもそのまま使用できます。
- ・電源コードを取り扱うときは  
電源コードの取り扱いかが悪いと、火災や感電の原因となることがありますので、次のような点に十分ご注意ください。



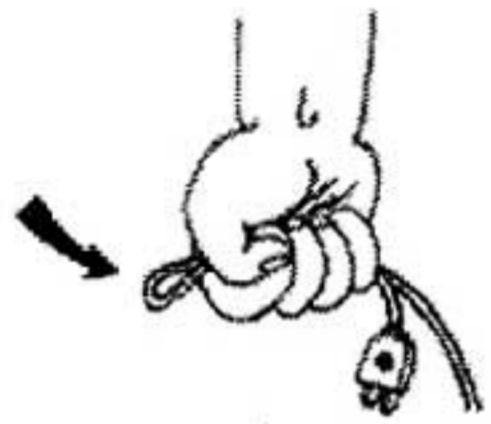
100V 以外は使用しない



濡れた手でさわらない



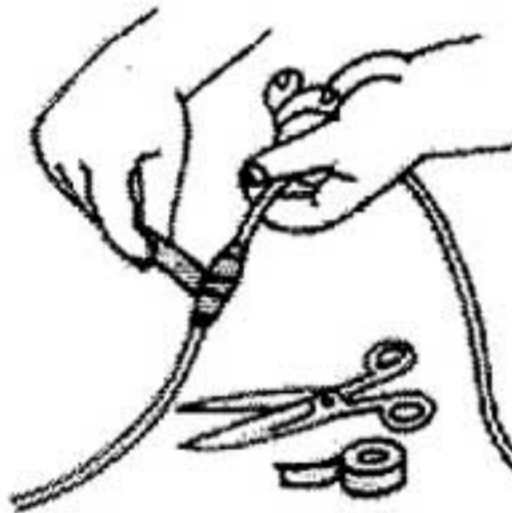
抜くときはプラグを持って



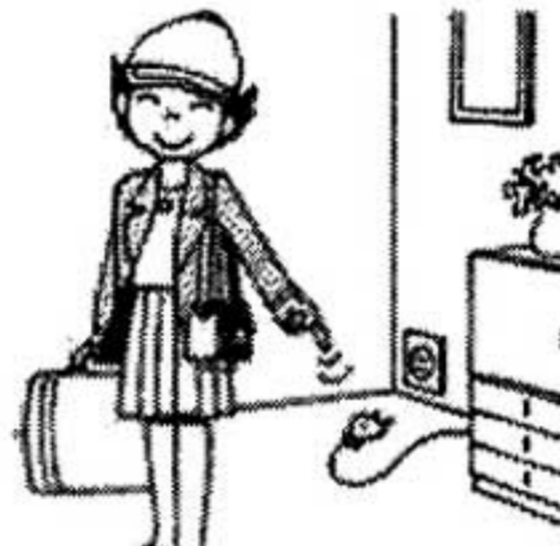
折り曲げたりしない



敷いたりして傷をつけない

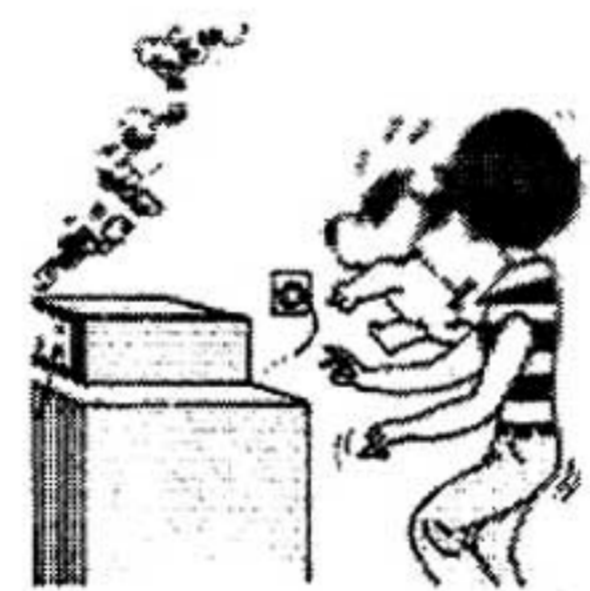


継足しなどはしない



プラグを抜く習慣を

- ・異常と感じたときは  
煙がでている、変な匂がする……などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理をご依頼ください。



- ・セットの内部に触れることは  
危険なうえ故障の原因となります。内部の点検・調整は、販売店へお任せください。

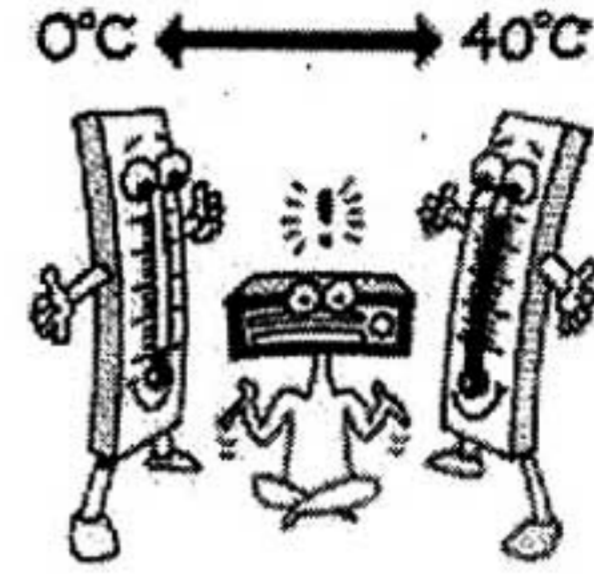


- ・水がこぼれたときは  
セットの上に花瓶、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。万一内部に水が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



## ■ 取り扱い上の注意

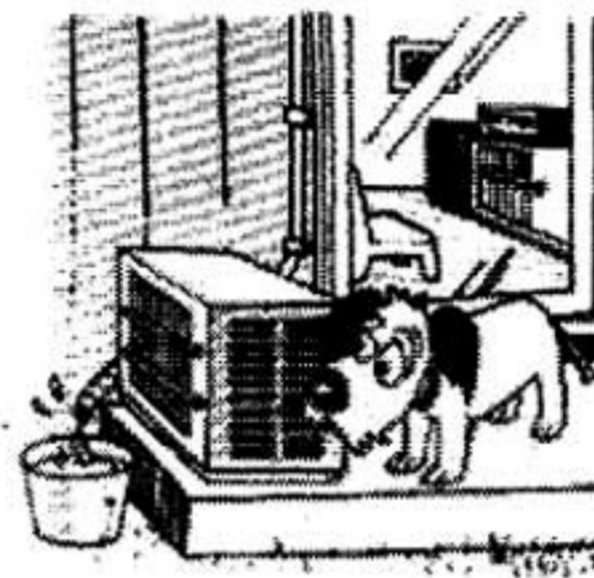
性能の維持確保 あるいは 故障防止のため、次のような場所はできるだけさけてください。



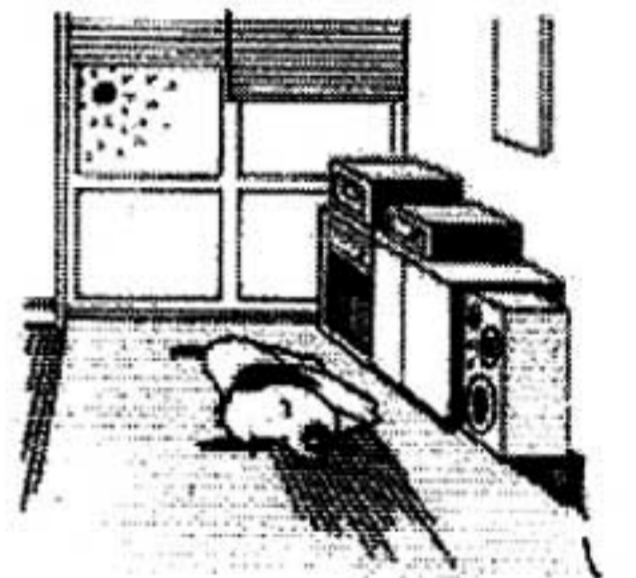
周囲温度が 0°C~40°C の範囲を越える所



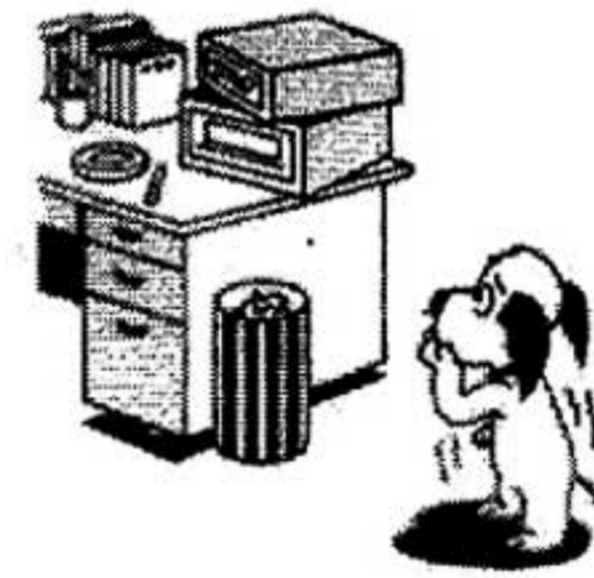
寒い部屋から急に暖かい部屋への移動



湿気の多い所



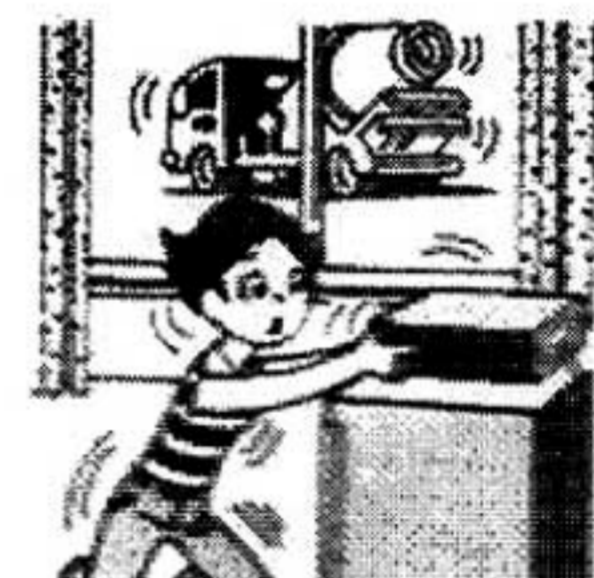
直射日光の当る所



不安定な所



暖房器のそば



振動やホコリの多い所



テレビのそば

- ・なお、特に本機ではパワー アンプなどのように多量の熱を発生する機器と重ねて使用したり、キャビネット上面の放熱効果を妨げるようなものを置いたりすることは、セット内部の温度上昇を招き、故障の原因になることがあります。また、このほかにもハム雑音の発生やキャビネットの変形、表面仕上げの損傷などを生じる場合がありますので、是非さけてください。

### 電源コードの接続について

本機のパワー コードの片側には、灰色の線が印刷されております。これは電源の極性を表示したもので、極性を表示してある他の機器（例えば、弊社発売の M-L10型）とその極性を合わせて AC コンセントにさしこみますと、より良好な音質が得られます。

# 保証と アフターサービス

## ■ 保証書には、購入年月日などが必要

この商品には、保証書を別途添付しております。保証書はお買いあげ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入 および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。



## ■ 保証期間

保証期間は、お買いあげ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買いあげ販売店が修理いたします。

そのほか詳細は、保証書をご覧ください。



## ■ アフターサービスのお問い合わせは

ご転居・ご贈答・その他アフターサービスについてご不明の点は、お買いあげ販売店 または 別紙「ビクターサービス窓口案内」をご覧くださいのうえ、もよりのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。



## ■ 保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。



## ■ 補修用性能部品の保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。

なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。



## ■ 修理依頼

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度「故障? と思う前に」の項(13ページ参照)をよくご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときには、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。

- ・ 型名：P-L10
- ・ 住所、氏名、電話番号、道順
- ・ 訪問希望日
- ・ 故障状態をできるだけ詳しく



## ・ 外国での使用は ?

本機は日本国内用に作られていますので、電源電圧、電源周波数の異なる外国では、使用できません。



## ・ ホコリ、ゴミ、汚れなど

がついた場合は、市販されている液体ワックス(シリコンワックス)を乾いた柔らかい布にしみこませ、キャビネット全体を拭き、最後に乾いた布にてムラなく拭きあげてください。

シンナーやベンジンなどの使用は、ひび割れ、変色を招きます。



# 接続のしかた

すべての接続が終わるまで、電源プラグ

レコード プレーヤー 1



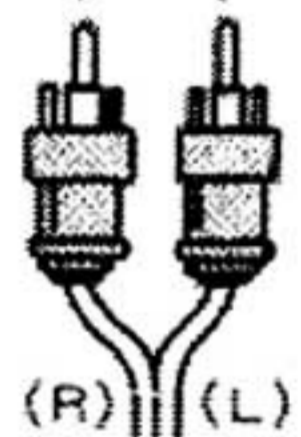
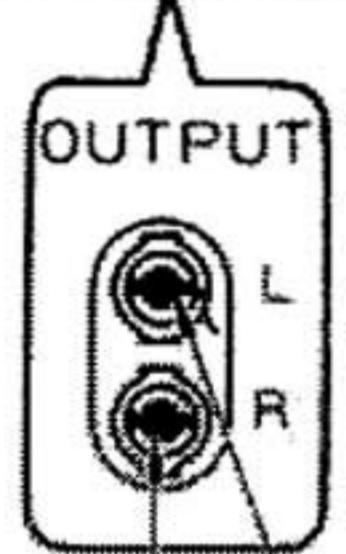
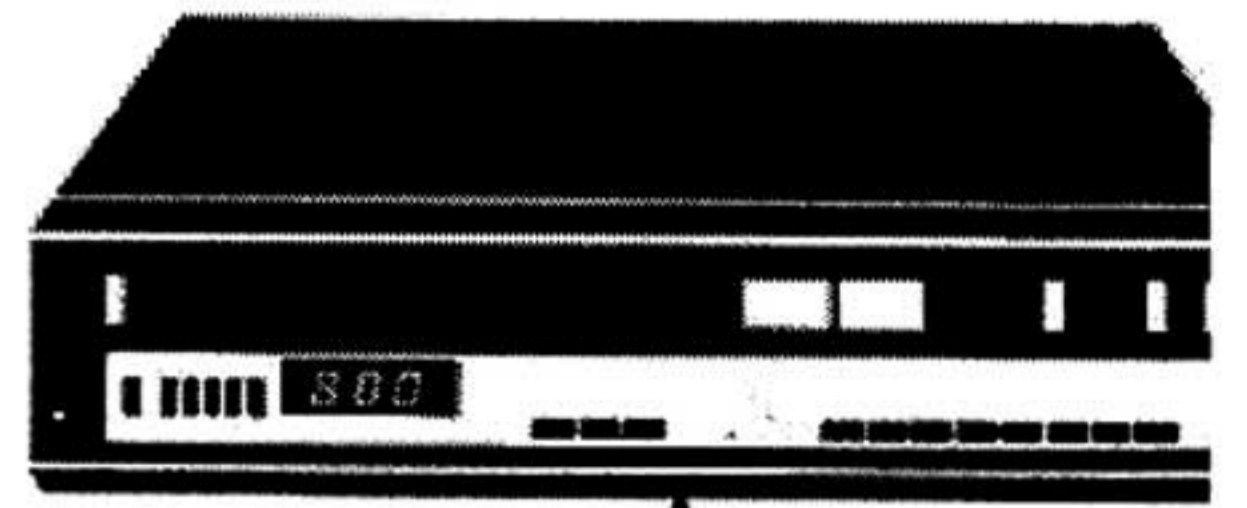
■ レコード プレーヤー 1では、MM型 または 比較的输出の 高い MC型 カートリッジが 使用できます。

アース線

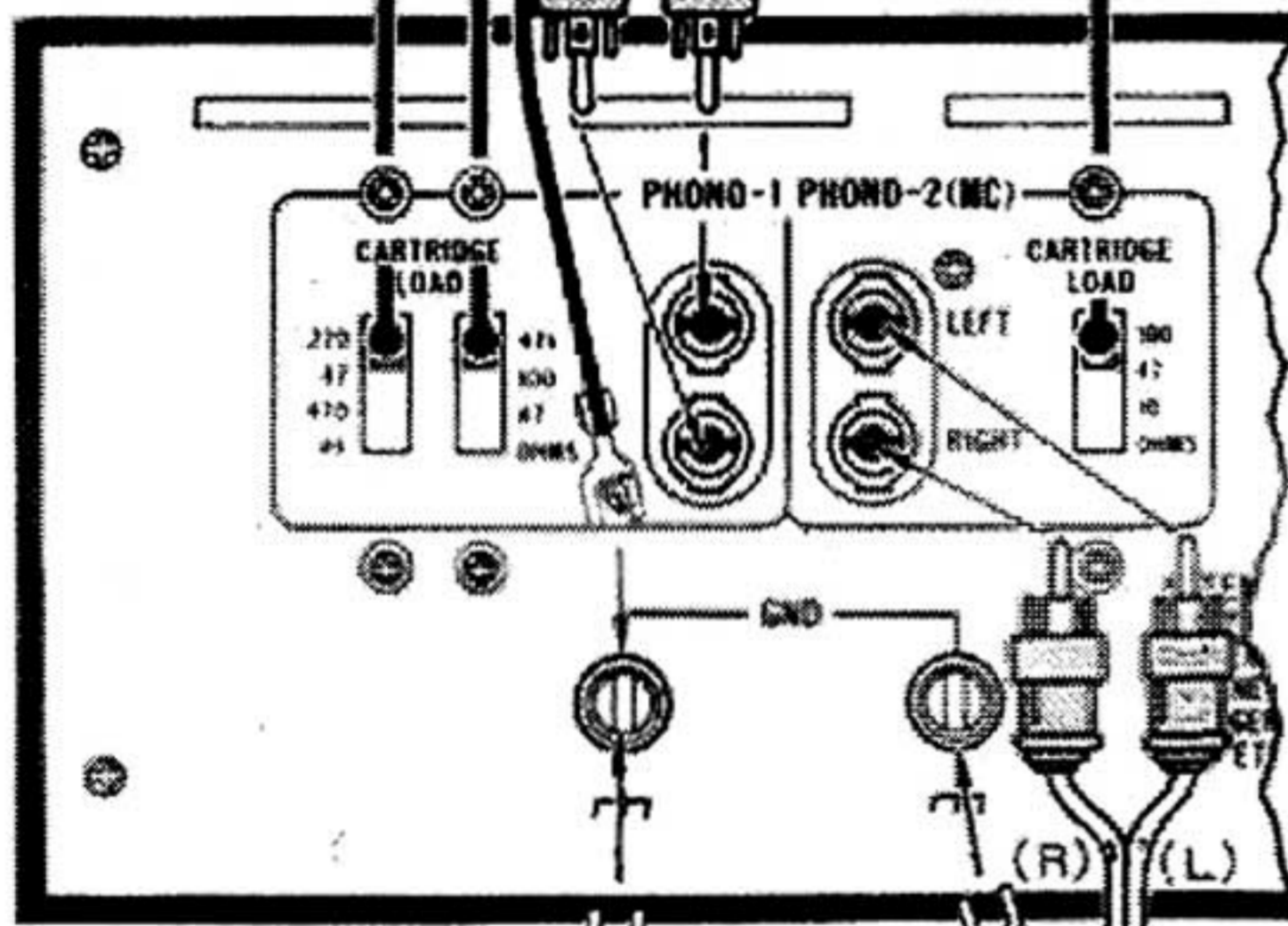
(注)・レコード プレーヤーからアース線がでていない場合には、接続の必要はありません。

カートリッジ ロード  
CARTRIDGE LOAD の切り替えスイッチについては、「カートリッジの選択」の項・11～12ページをご参照ください。

FM/AM チューナー



(注)・本機では <sup>パワー</sup> POWER のボタンを "ON" にしても 5～7秒程度音がでません。これはスイッチを "ON" にしたときのショック音を防止するためのもので、このほかにも "ON" した直後に <sup>ボリューム</sup> VOLUME やスイッチ類を動かしますと雑音ができることがあります。これらは故障ではありません。セットが安定するまでお待ちください。



アース線

■ レコード プレーヤー 2では、0.05mV～0.1mV 未満の低出力 MC型 カートリッジが使用できます。



アースをとる場合はアース線の一端を銅板や鉄棒などにつなぎ、30cm 以上の深さに埋めます。



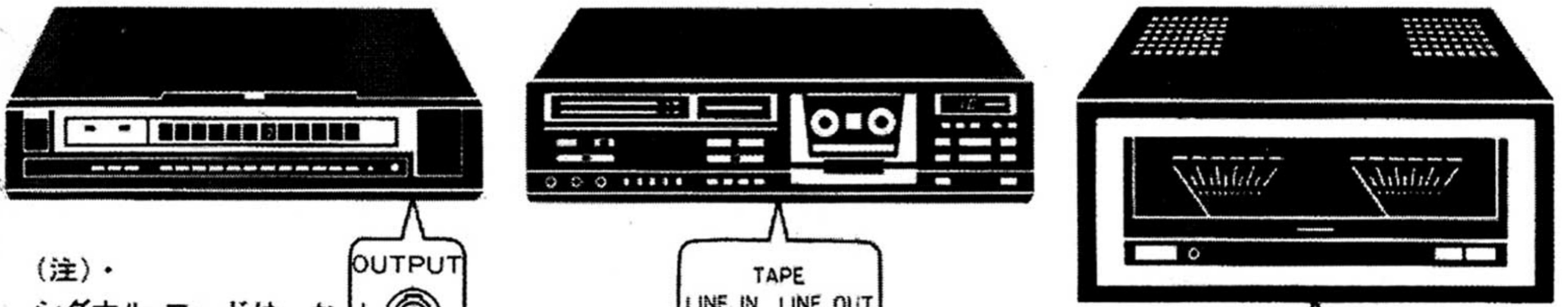
レコードプレーヤー 2

コンセントにさしこまないでください。

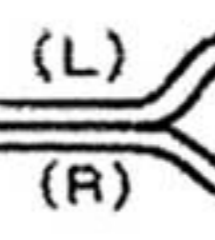
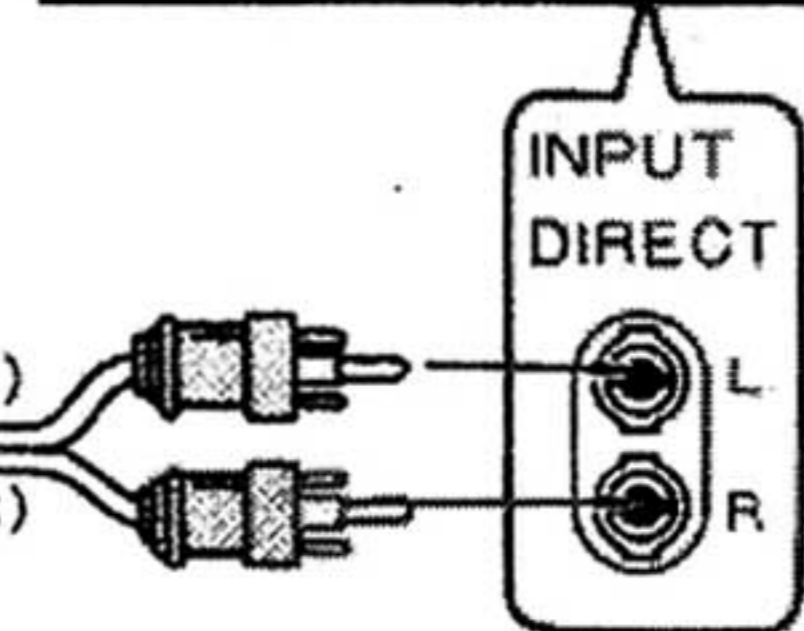
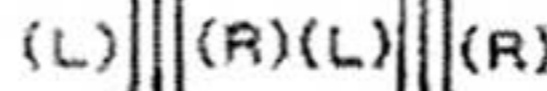
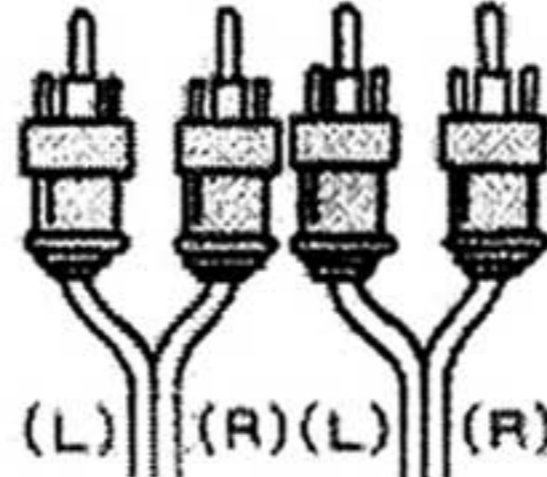
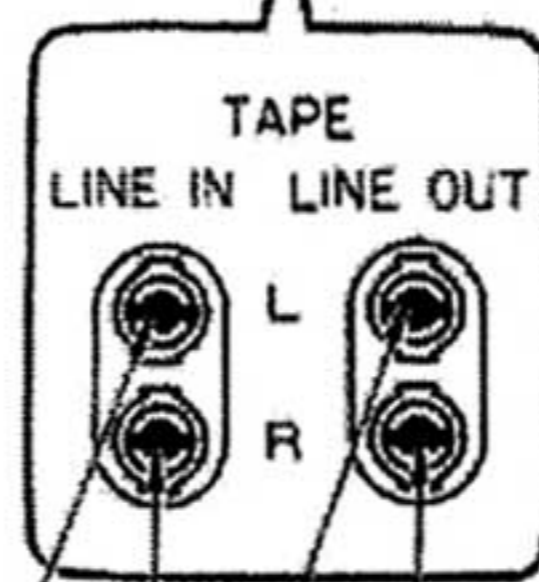
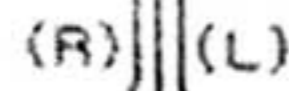
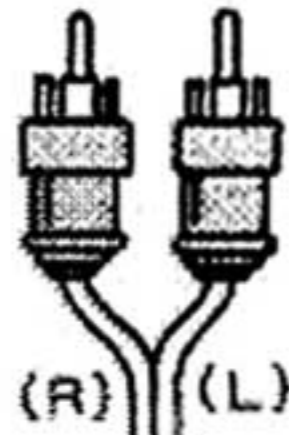
テレビ音声多重チューナー

テープデッキ 2

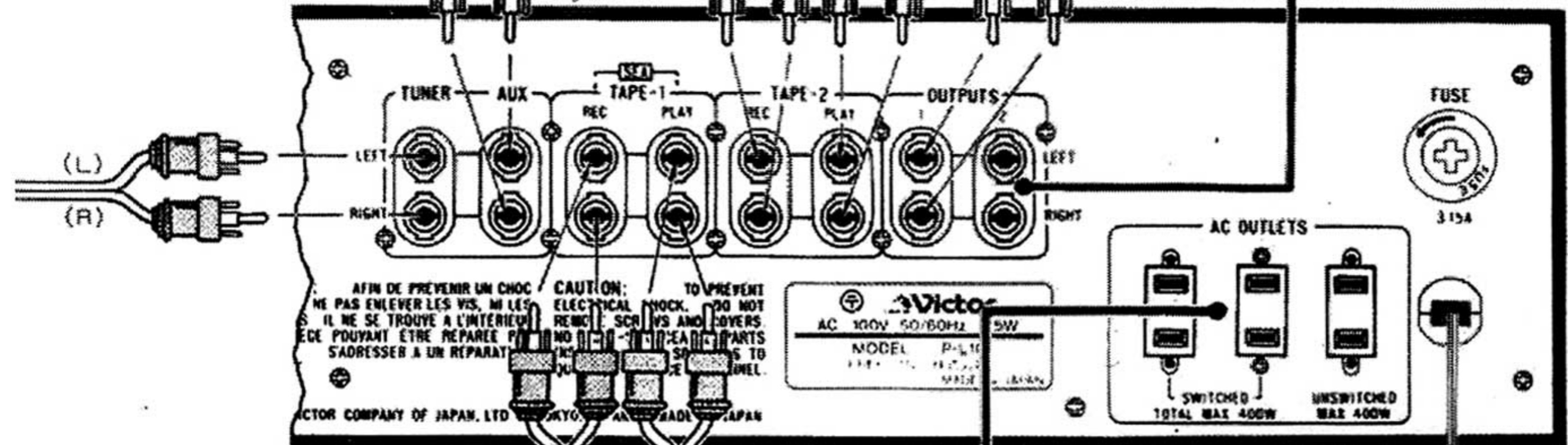
パワー アンプ



(注)・  
シグナルコードは、かならず同じチャンネルどうし、(LとL、RとR)をつなぎ、確実にさしこんでください。さしこみかたが不完全な場合、音がでなくなったり、雑音が発生したりすることがあります。



(注)・  
本機では「<sup>アンプ出力</sup>OUTPUT」端子が2組ありますので、オーディオ機器を増設した場合などにお使いください。なお、パワーアンプを2台接続する時はなるべく同クラスのアンプをお使いください。

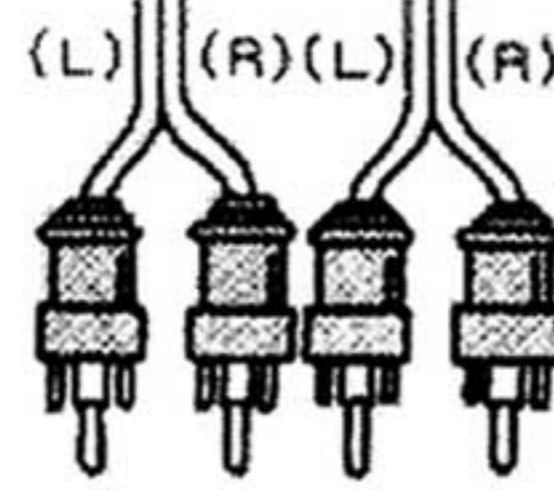
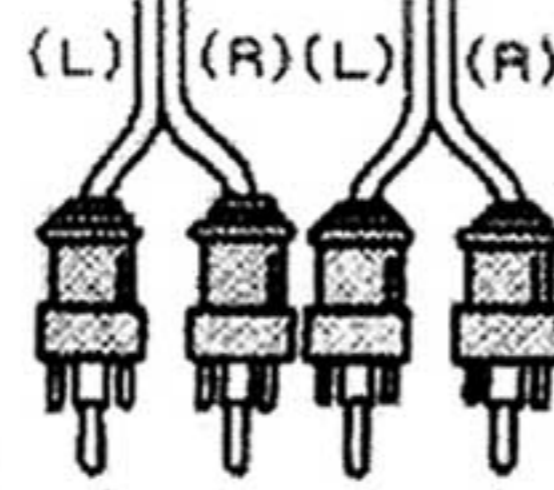
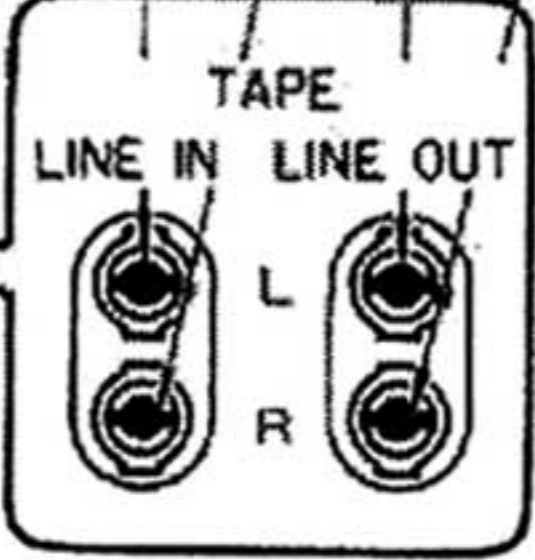


本機

(注)・  
「<sup>アクトレット</sup>AC OUTLETS」端子はオーディオ機器専用ですが、消費電力がこの端子の定格電力をこえるパワーアンプと弊社以外で電源インラッシュ電流防止回路の付いていない100W+100W以上のパワーアンプや蛍光灯などのように雑音を発する機器の接続については、是非さけてください。M-L10のパワーコードを差し込む場合は、パワーコード灰色表示側がAC OUTLETの下側になるように差し込んでください。



テープデッキ 1






AC 100V  
50/60 Hz

(注)・  
電源コードについては、「取り扱い上の注意」の項・1ページをご参照ください。

# 主要部分の名称および働き

## モード MODE


**MONO**(): 右側と左側の信号を混ぜ合わせ、モノラルとして両チャンネルから再生する場合、このボタンを押してください。MONO のインジケータが点灯します。


**STEREO**(): 普段はこの位置でお聞きください。なお、このボタンが押されて()いるときには、もう一度押してください。ボタンが手前にもどされて"STEREO"となります。

## パワー POWER

本機に電源をいれる場合、このボタンを押してください。ボタンを押した直後 5～7 秒間はミュート回路の働きでつまみの中のインジケータが点滅をはじめますが、動作状態が安定しますと点滅から点灯に変わります。なお、このインジケータが点滅している間は、本機からの信号は出ません。

## ダイレクト DIRECT

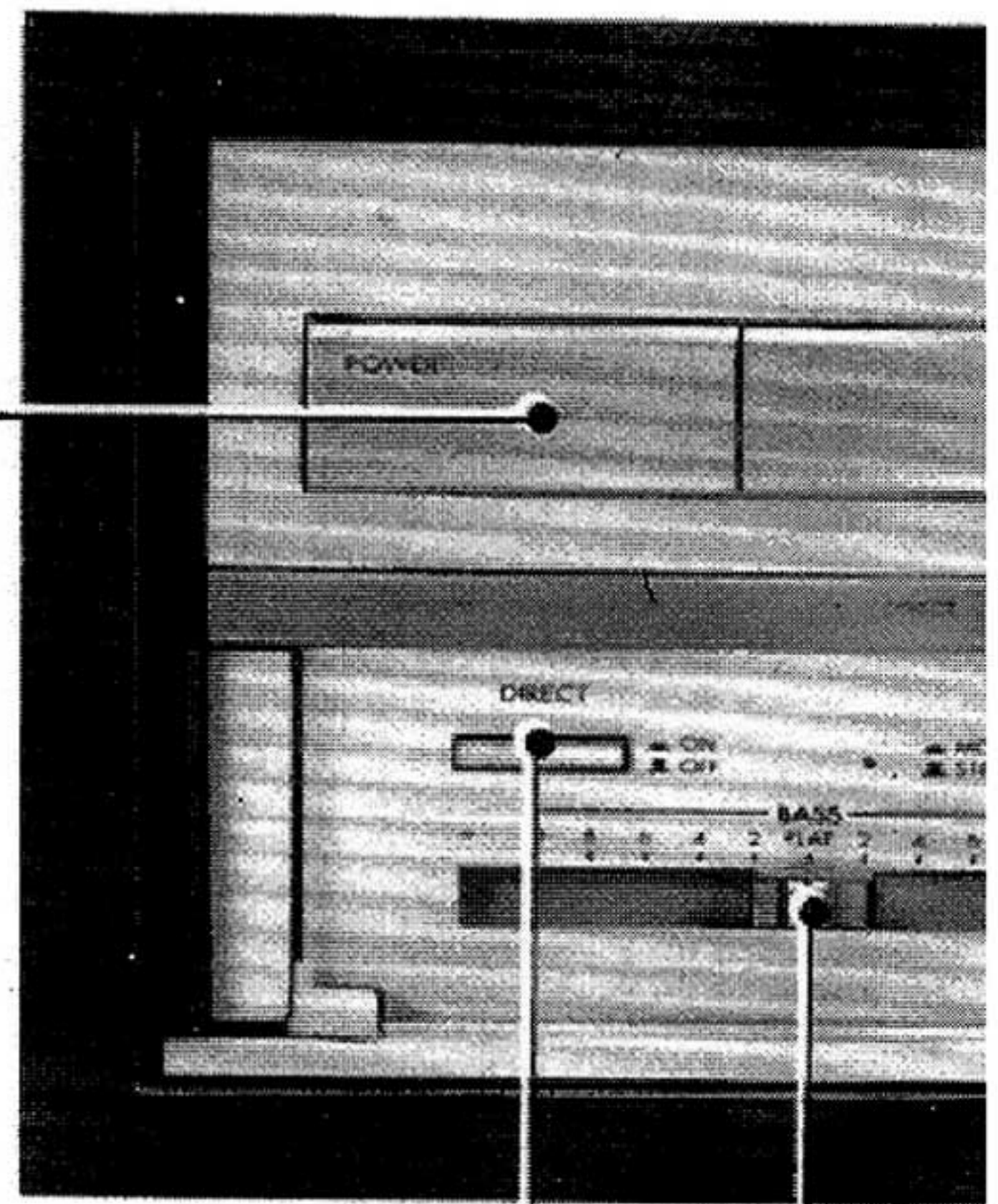
**ON**(): 標準的(特性上平坦)な音でお聞きいただく場合、このボタンを押してください。DIRECT のインジケータが点灯します。DIRECT のインジケータが点灯すると、MODE、TONE、SUBSONIC の各インジケータは消えてしまい、これらの回路を通らず信号が直接"OUTPUT"端子にでてきます。

**OFF**(): MODE、TONE (BASS、TREBLE)、SUBSONIC などの機能を働かせる場合は、もう一度このボタンを押して手前にもどしてください。

## バス BASS

低音部を調整するつまみです。

つまみを中央の位置にしますと標準的(特性上平坦)な音となり、つまみを左(←)へ動かしますと低音が弱められ、右(→)へ動かしますと強められます。



サブソニック  
**SUBSONIC**

**ON(■)**：レコードのそりなどが原因ででてくる超低域雑音が耳ざわりであったり、またはスピーカーの混変調歪が気になるときには、このボタンを押してください。

サブソニック  
SUBSONIC のインジケーターが点灯します。

**OFF(■)**：普段はこの位置でお聞きください。  
なお、このボタンが押されて(■)いるときには、もう一度押してください。  
ボタンが手前にもどされて“OFF”となります。

テープ  
**TAPE-2**

TAPE-2 デッキでテープをお聞きいただく場合、このボタンを押してください。

つまみの中のインジケーターが点灯します。

テープ  
**TAPE-1**

テープ  
TAPE-1 デッキでテープをお聞きいただく場合、このボタンを押してください。

つまみの中のインジケーターが点灯します。

トレブル  
**TREBLE**

高音部を調整するつまみです。

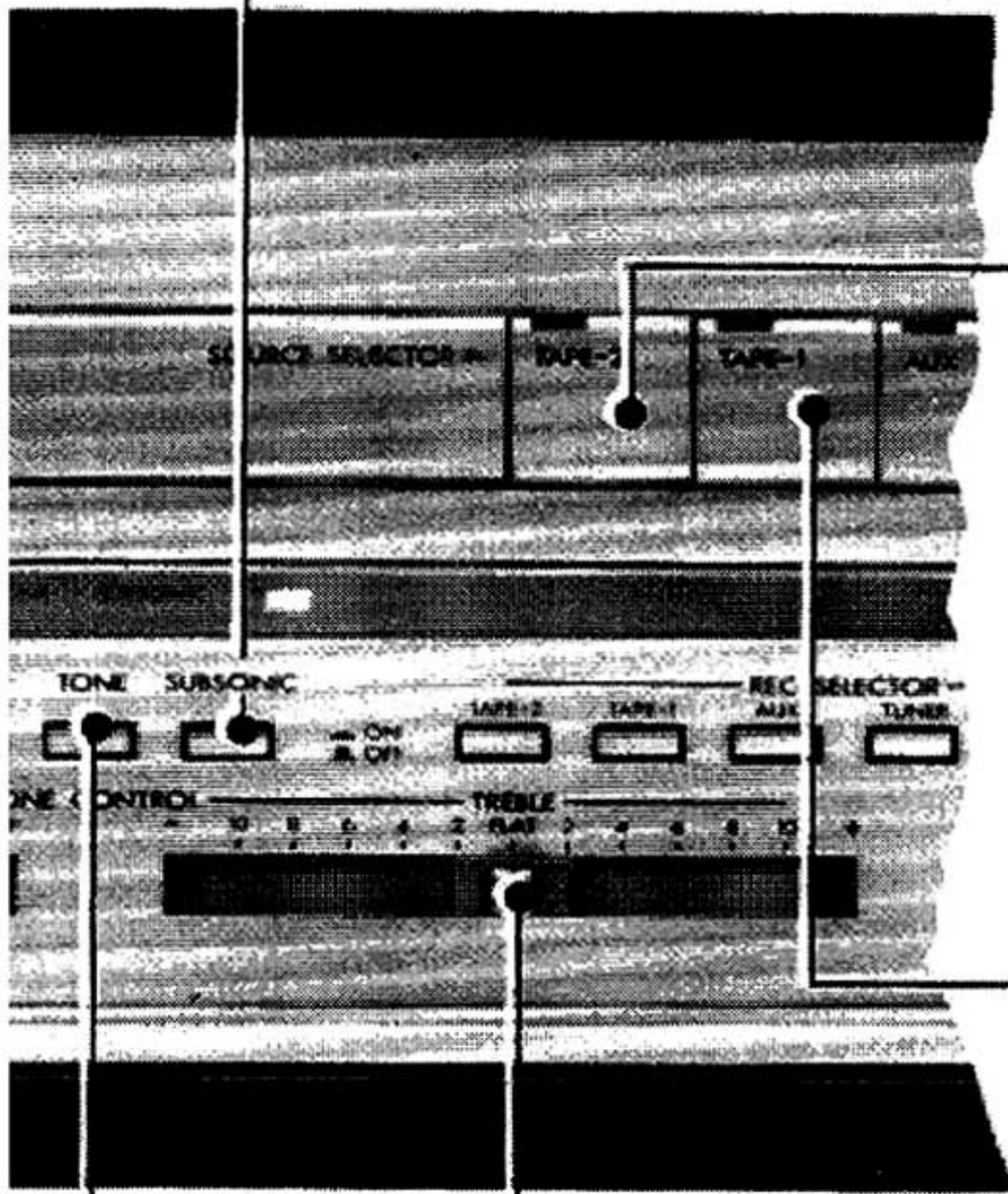
つまみを中央の位置にしますと標準的（特性上平坦）な音となり、つまみを左(←)へ動かしますと高音が弱められ、右(→)へ動かしますと強められます。

トーン  
**TONE**

**ON(■)**：<sup>バス</sup>BASS および <sup>トレブル</sup>TREBLE のつまみで音質を調整する場合、このボタンを押してください。

トーン  
TONE のインジケーターが点灯します。

**OFF(■)**：標準的（特性上平坦）な音をお聞きいただく場合、もう一度このボタンを押して手前にもどしてください。



# 使いかた

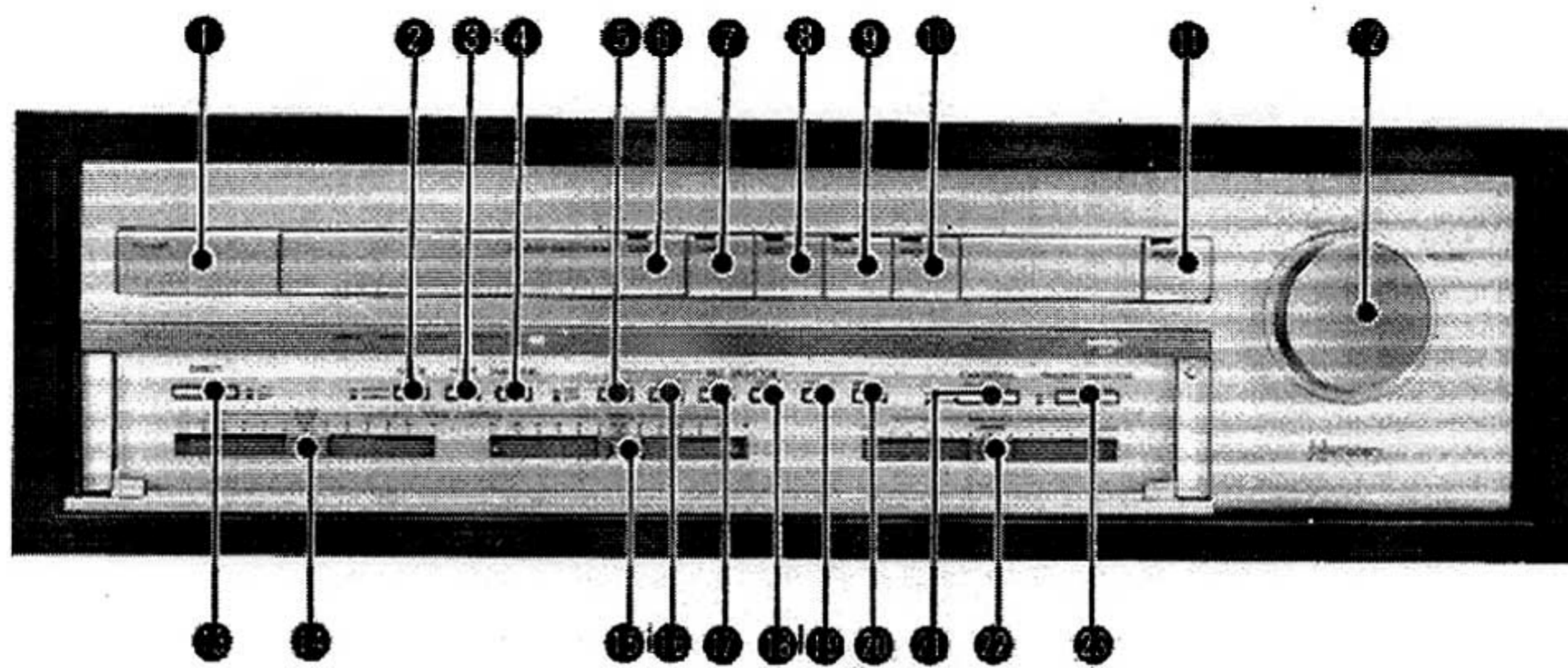
使用目的に応じて下記のスイッチ類を切り替え、POWER のボタン ❶ を押します。

また、雑音を防ぐため VOLUME のつまみ ❷ をあらかじめ左一杯にしぼり、電源がはいったあと徐々に音量をあげて調整し  
 なお、説明のないつまみに関しては「主要部分の名称および働き」の項・5～8ページをご参照ください。

	ソース SELECTOR ❸～❶	フォノ SELECTOR ❷	カートリッジ CARTRIDGE ❶
レコード レコード プレーヤーは？	フォノ-1 *出力が0.1～5 mVのMCまた は1～10mVの MMカートリッ ジをご使用にな る場合	フォノのボタン ❶ を押します。 (注) . . . フォノのボタン以外 にも「カートリッジの 選択」の項・11～12ペ ージをご参照のうえ、 カートリッジ CARTRIDGE のボタ ン ❶ どうしろ側にあ る CARTRIDGE LOAD のつまみを操作 してください。	出力が0.1～1mVの MCカートリッジの場合 には“MC”の位置 に、また1～10mVの MMカートリッジまた は1～5mVのMCカ ートリッジの場合は “MM”の位置にします。
	フォノ-2 *出力が0.05～ 0.1mVのMCカ ートリッジをご 使用になる場合		“2”の位置にします。
FM放送、AM放送	チューナー TUNERのボタン ❶ を押します。	—	—
エイユーエックス AUX “AUX”端子に接続したもの（例 えば、テレビ音声多重チューナーな ど）をお聞きいただく場合	エイユーエックス AUXのボタン ❷ を 押します。	—	—
テープ テープ デッキは？	テープ TAPE-1のボタン ❸ を押します。	—	—
	テープ TAPE-2のボタン ❹ を押します。	—	—

何をお聞きになりますか





	レコーディングの時 REC セレクター SELECTOR ①、② ~ ⑤	テープデッキ		備 考
		TAPE-1	TAPE-2	
レコード	PHONO のボタン ③ を押します。			レコーディングの時 REC SELECTOR と SOURCE SELECTOR が並列接続されておりますので、それぞれが独立して動作いたします。従って、レコードを聞きながら放送を録音したり、テープをコピーすることができます。  3ヘッドテープデッキで録音モニター（録音された音を次のヘッドで再生し、録音状態を確認しながら録音するものをいう）をする場合、TAPE-1デッキでは、SOURCE SELECTOR の TAPE-1 ⑦ を、また TAPE-2デッキであれば TAPE-2 のボタン ⑧ を押してください。
FM 放送、AM 放送	TUNER のボタン ④ を押します。			録音レベル（録音される時の音の大きさ）の調整は、本機の VOLUME つまみ ⑩ ではできませんので、テープデッキ側の音量調整つまみでおこなってください。
エイユーエックス AUX	エイユーエックス AUX のボタン ① を押します。			
テープ	テープ TAPE-1 から TAPE-2 へコピーする場合	テープ TAPE-1 のボタン ② を押します。	再生	録音
	テープ TAPE-2 から TAPE-1 へコピーする場合	テープ TAPE-2 のボタン ⑤ を押します。	録音	再生

何を録音しますか

# カートリッジの選択

## ■ 回路構成

PHONO の入力は PHONO 1、PHONO 2 と 2 系統ありますが、PHONO SELECTOR によっていずれかを選び、さらに CARTRIDGE 切り替えスイッチによって "MM" と "MC" に切り替えられることができます。

### ・ PHONO-1 (MM)

CARTRIDGE 切り替えスイッチをこの位置にしますと、出力が  $1\text{mV} \sim 10\text{mV}$  の MM カートリッジに対応して、中心出力が  $2.5\text{mV}$ 、利得が約  $36\text{dB}$  (63倍)、許容入力  $300\text{mV}$  になっております。

また、定格入力 ( $2.5\text{mV}$ ) で "REC OUT" 端子に約  $150\text{mV}$  の出力が得られます。

なお、うしろ側のパネルには CARTRIDGE LOAD の切り替えスイッチを設けておりますので、許容量の負荷を選択することができますが、通常は  $47\text{k}\Omega$  と  $47\text{PF}$  の位置に、また出力が  $1\text{mV} \sim 5\text{mV}$  の MC カートリッジの場合であれば  $100\Omega$  と  $47\text{PF}$  の位置に合わせてご使用ください。

### ・ PHONO-1 (MC)

CARTRIDGE 切り替えスイッチをこの位置にしますと、出力が  $0.1\text{mV} \sim 1\text{mV}$  未満の MC カートリッジに対応して、中心出力が  $0.2\text{mV}$ 、利得が約  $58\text{dB}$  (794倍)、許容入力  $24\text{mV}$  になっております。

なお、うしろ側のパネルにある CARTRIDGE LOAD の切り替えスイッチは  $100\Omega$  又は  $47\Omega$  と  $47\text{PF}$  の位置に合わせてご使用ください。

### ・ PHONO-2 (MC)

CARTRIDGE 切り替えスイッチをこの位置にしますと、MC カートリッジの中でも低出力の  $0.05\text{mV} \sim 0.1\text{mV}$  に対応し、中心出力が  $0.07\text{mV}$ 、利得が約  $68\text{dB}$  (2.512倍)、許容入力  $8.4\text{mV}$  になるようになっております。

CARTRIDGE LOAD としては  $10\Omega$ 、 $47\Omega$ 、 $100\Omega$  が選択できるようになっておりますので、カートリッジに指定された負荷抵抗に近いところに合わせてご使用ください。

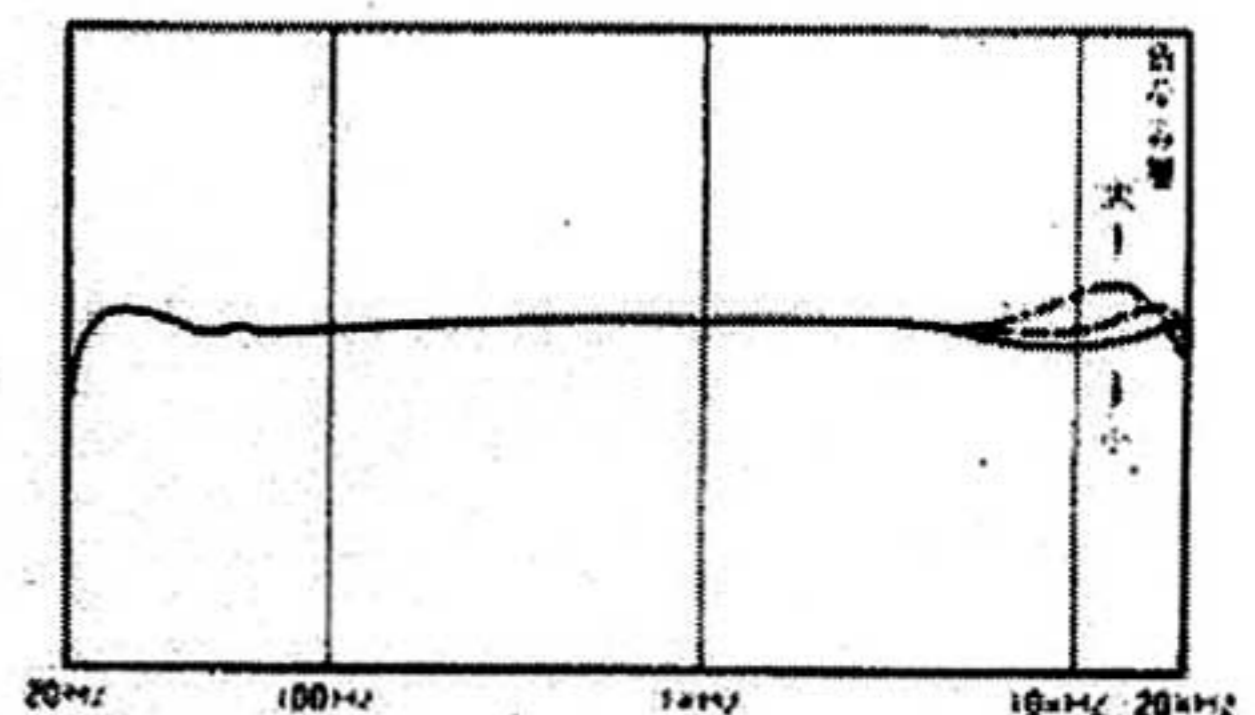
(注)・PHONO SELECTOR および

CARTRIDGE のボタンを押したり、あるいは手前にもどしたりするとき音が一時とぎれますが、ミュートイングと連動しているため、故障ではありません。

## ■ CARTRIDGE LOAD 切り替えスイッチについて

### ・ PHONO-1

MM カートリッジでは、負荷抵抗および容量によって特性が変わります。現在、負荷抵抗はほとんどのカートリッジで  $50\text{k}\Omega$  となっておりますが、容量についてはほとんど指定はありません。しかし、カートリッジのリアクタンス成分と負荷容量によって共振ピークができるため、負荷容量による特性の変化は次の図のようになります。



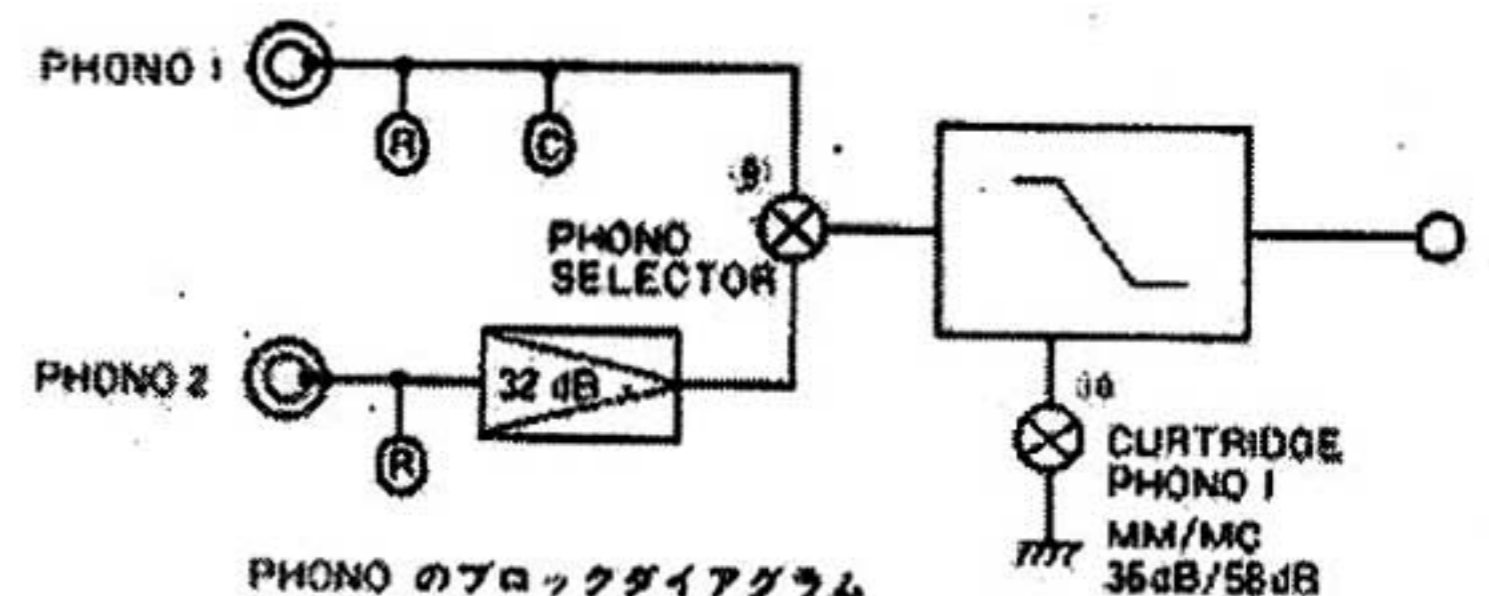
容量負荷の変化による特性

(注)・上図の特性は一例で、すべてのカートリッジがこのように変化するというものではありません。

従来のアンプでは "PHONO" 端子から入力切り替えのイコライザー回路までシールド線を使用しておりましたが、最近高域特性改善のためにシールド線を最少にするような部品配置にしております。

従って、プレーヤーによっては特性が平坦であってもお好みによってもう少し高域が欲しいと思われる場合も考慮して、微妙な調整ができるように容量の切り替えスイッチを設けてあります。

なお、通常は  $47\text{k}\Omega$  と  $47\text{PF}$  が基準となります。MC カートリッジの高出力 ( $1\text{mV} \sim 5\text{mV}$ ) および中出力 ( $0.2\text{mV} \sim 1\text{mV}$ ) のものは、負荷インピーダンスの指定は  $100\Omega$  以下が多いので、 $100\Omega$  と  $47\Omega$  のポジションも設けました。



PHONO のブロックダイアグラム

エス イー エー

# SEA グラフィック イコライザー

## ・PHONO-2

MC カートリッジの中でも低出力 (0.07 mV ~ 0.1 mV) の負荷インピーダンスは 3.3Ω ~ 100Ω まで種々様々ですので、本機では 10Ω、47Ω、100Ω の3段階で選択できるようになっております。

カートリッジの指定負荷に近い値を選んでご使用ください。

なお、MC カートリッジではインダクタンス成分が少ないので、MM カートリッジのように負荷インピーダンスが変化しても目立った周波数特性の変化はあまり見られませんが、カートリッジの出力が著しく変化します。

従って、指定負荷と同等かあるいは大きめにインピーダンスをお選びください。

もし、指定負荷が不明なときは、100Ω でご使用ください。

		入 力 感 度	入力インピーダンス	使用カートリッジ
PHONO-1	MM	2.5 mV	47 kΩ	MM タイプ
			100 Ω 又は 47 Ω	MC 高出力 タイプ
	MC	0.2 mV	100 Ω 又は 47 Ω	MC 一 般 タイプ
PHONO-2		0.07 mV	100 Ω 又は 47 Ω 又は 10 Ω	MC 低出力 タイプ

入力感度と入力インピーダンス

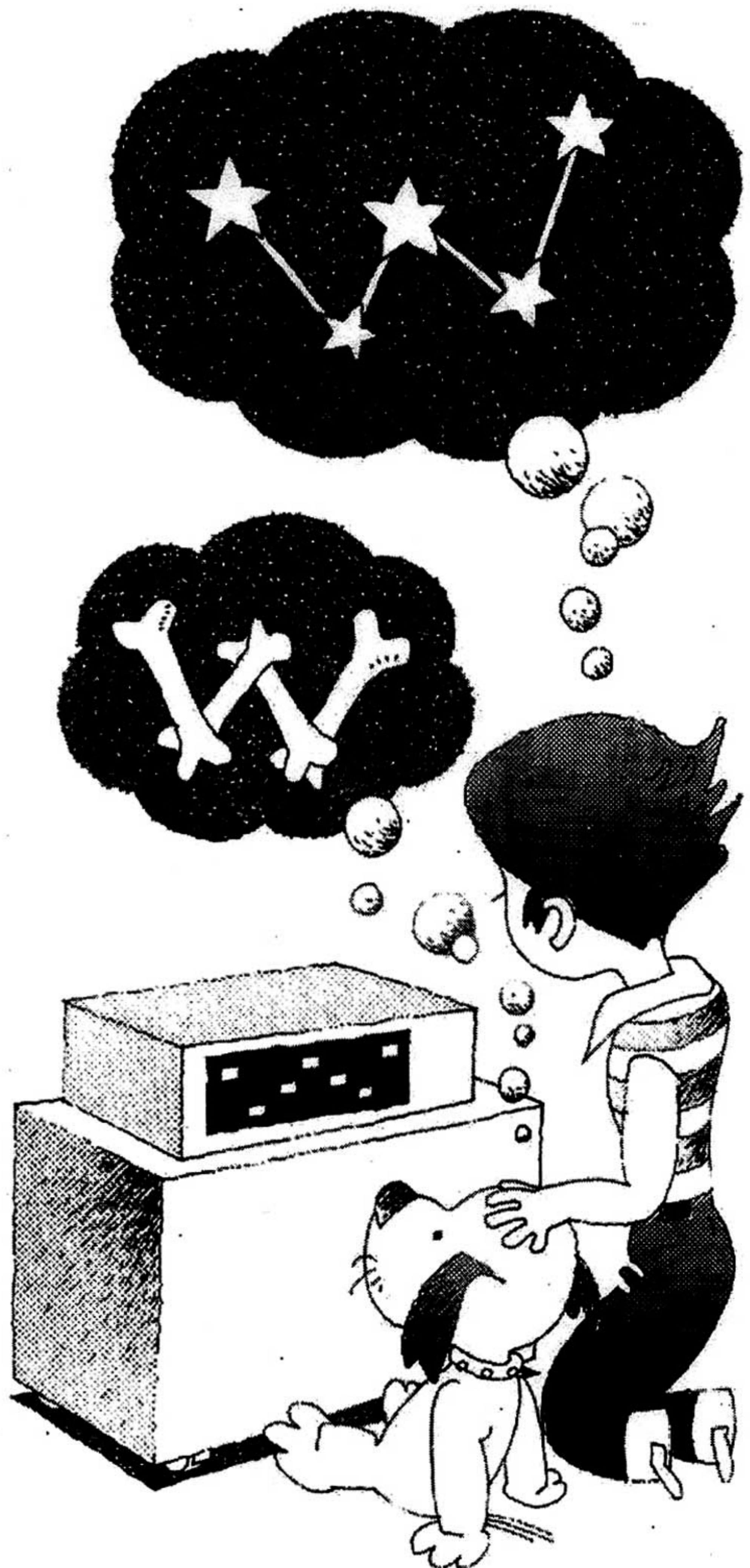
(注)・プレーヤーのシグナル コードを接続するとき または CARTRIDGE LOAD を切り替えるとき、不快な雑音を生じることがありますので、VOLUME のつまみを最小の位置にするかあるいは POWER のボタンを "OFF" にしてください。

エス イー エー SEA グラフィック イコライザーを接続するときは、本機の "TAPE-1" 端子 と SEA の "LINE" 端子 を次のように接続します。

テープ レコーディングの時  
TAPE-1 REC ——— エス イー エー ライン イン  
テープ プレイ  
TAPE-1 PLAY ——— エス イー エー ライン アウト

エス イー エー SEA グラフィック イコライザーは、テープ-1 のボタンを押してつまみの中のインジケーターを点灯させると使用することができますが、この場合 REC SELECTOR のボタンで入力を切り替えてください。

なお、テープデッキを2台使用するときには、SEA 側の "TAPE" 端子 をご使用ください。



# 故障？ と思う前に

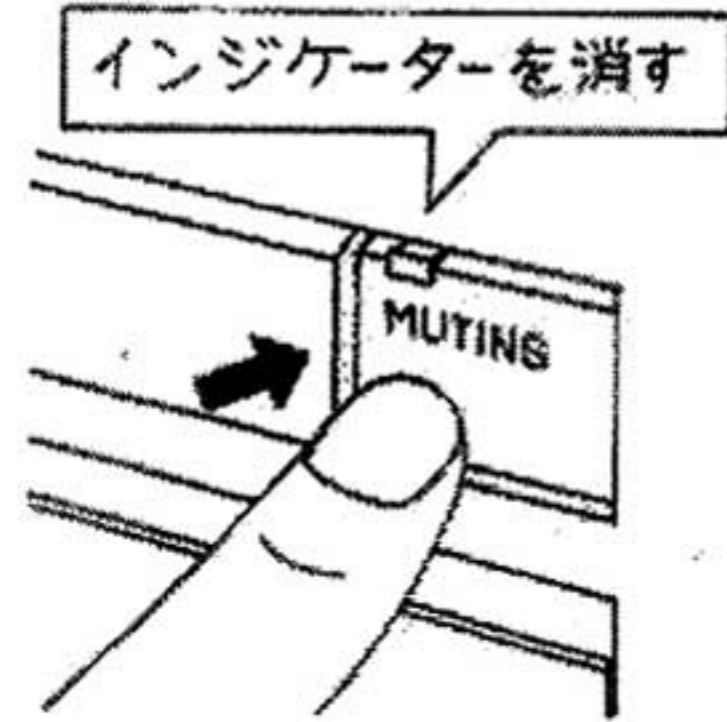
—おや？ 故障かな？ と思ったら……

修理を依頼する前にちょっとお確かめください—



音がでない。

ミュート MUTING のインジケータが点灯していませんか。



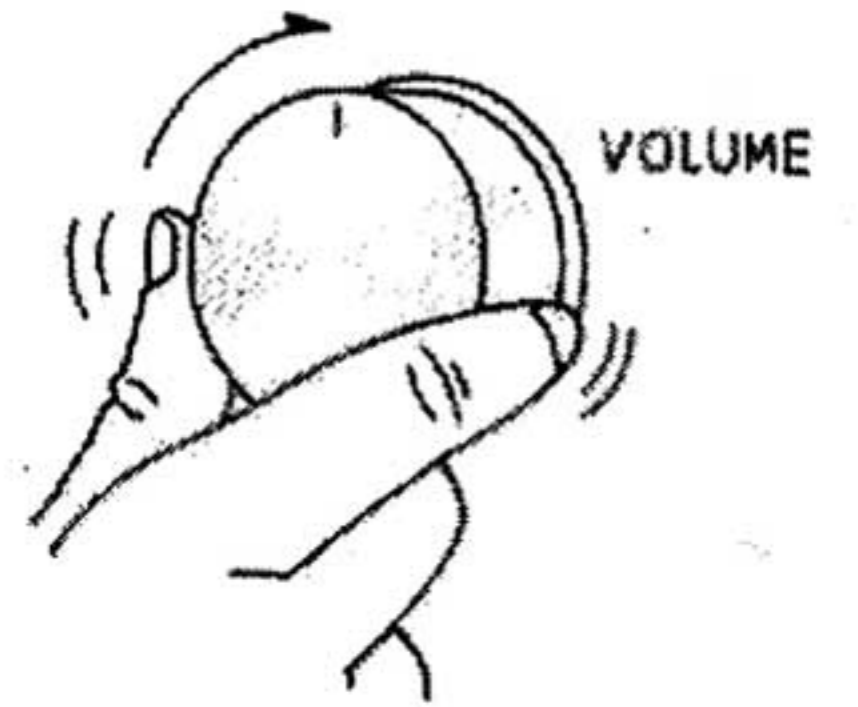
つまみの中のインジケータが消えるように、ミュート MUTING のボタンを押してください。

レコーディングの時 ショート ピンが "REC" 端子にさしこんでいませんか。



ショート ピンは、正しく保管しておいてください。

ボリューム VOLUME のつまみを左 (L) 一杯に回しきっていませんか。

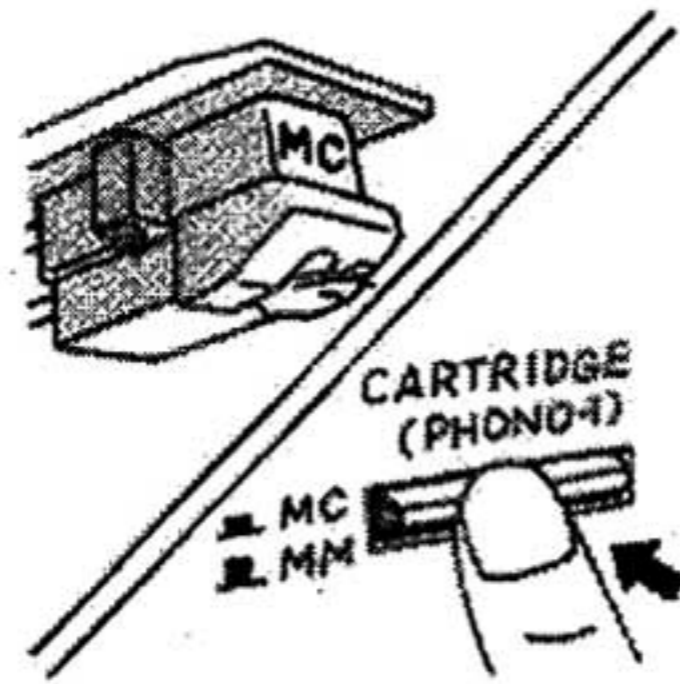


ボリューム VOLUME のつまみを右 (R) 方向に回します。



極端に音が小さく、音質が悪い。

カートリッジ CARTRIDGE のボタンを押し間違えていませんか。



カートリッジに合せて ムービングマグネットの時 MM、ムービングコイルの時 MC を正しく切り替えてください。

カートリッジ ロード CARTRIDGE LOAD の切り替えを間違えていませんか。



カートリッジに合せて、正しくお使いください。

フィン エレクター PHONO SELECTOR のボタンを押し間違えていませんか。



カートリッジに合せて、正しくお使いください。



録音ができない。

レコーディングの時 REC OFF のボタンを押していませんか。

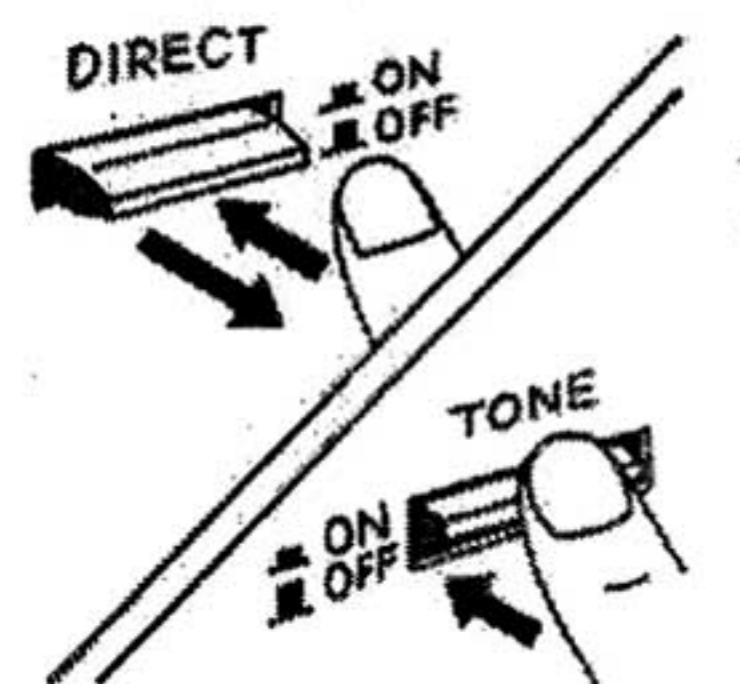


録音するプログラム・ソースによって レコーディングの時 REC SELECTOR のボタンを押してください。



音質調整ができない。

ダイレクト DIRECT および トーン TONE のボタンを押し間違えていませんか。



ダイレクト DIRECT のボタンは "OFF"、トーン TONE のボタンを "ON" にすれば BASS および トレブル TREBLE のボタンで音質を調整することができます。

# 仕様

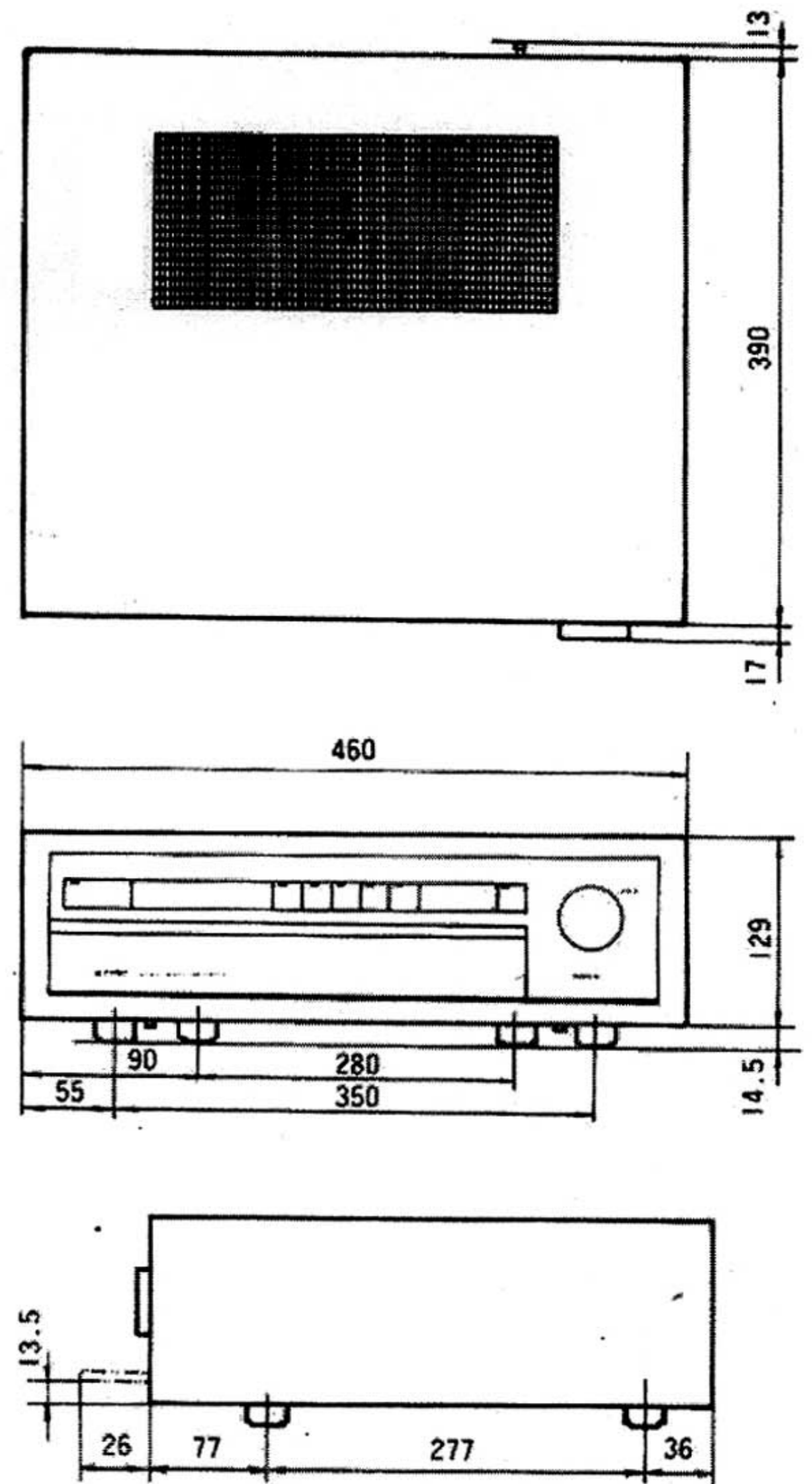
# 寸法図

<b>定格入力</b>	入力感度/インピーダンス (1 kHz)/容量	
PHONO-1 (MM)	2.5 mV	/ 47 k $\Omega$ 、100 $\Omega$ 、47 $\Omega$
PHONO-1 (MC)	200 $\mu$ V	
PHONO-2 (MC)	70 $\mu$ V	/ 100 $\Omega$ 、47 $\Omega$ 、10 $\Omega$
TUNER	150 mV	/ 47 k $\Omega$
AUX	150 mV	/ 47 k $\Omega$
TAPE-1、2	150 mV	/ 47 k $\Omega$
<b>定格出力</b>	出力電圧/インピーダンス (1 kHz)	
PRE OUT	2 V	/ 220 $\Omega$ (DIRECT)
REC OUT	150 mV	/ 220 $\Omega$ (PHONO)
<b>歪率</b>		
PHONO-1 (MM)	0.002 %	(20 Hz ~ 20 kHz、 REC OUT 15 V 出力時)
PHONO-1 (MC)	0.002 %	
PHONO-2 (MC)	0.002 %	
AUX	0.002 %	(20 Hz ~ 20 kHz、 PRE OUT 10 V 出力時)
<b>S/N</b>		
PHONO-1 (MM)	85 dB	(IHF Aネットワーク ショートサーキット)
PHONO-1 (MC)	68 dB	
PHONO-2 (MC)	68 dB	
TUNER、AUX	105 dB	
TAPE-1、2	105 dB	
<b>PHONO 最大許容入力</b> (1 kHz、歪率 0.002 %)		
PHONO-1 (MM)	300 mV	
PHONO-1 (MC)	24 mV	
PHONO-2 (MC)	8.4 mV	
<b>PHONO RIAA 偏差</b>	$\pm 0.2$ dB (20 Hz ~ 20 kHz)	
<b>トーンコントロール</b>	TREBLE	$\pm 8$ dB (10 kHz)
	BASS	$\pm 8$ dB (100 Hz)
<b>サブソニック フィルター</b>	18 Hz (-6 dB/oct)	
<b>ミューティング</b>	-20 dB	
<b>電源電圧</b>	AC 100 V (50 Hz、60 Hz 両用)	
<b>消費電力</b>	65 W (Ⓢ 電気用品取締法基準)	
<b>電源コンセント</b>	電源スイッチと連動	2 個
	400 W (合計電力)	
	電源スイッチと非連動	1 個
	400 W	
<b>重量</b>	12 kg (本体)	

<b>付属品</b>	シグナル コード (1.2m)	1 本
	ドライバー	1 本

(注)・IHFは米国のハイファイ協会 (Institute of High Fidelity Incorporation) の略称です。

・本機の仕様 および 外観は、改善のために予告なく変更することがあります。



(注)・寸法の単位は mm です。

・上記の寸法は設計寸法ですので、ラック (棚) などに設置する場合は、若干の余裕を考慮してください。

また、放熱のため上部との隙間は 5 cm 以上とって、前面 または 背面を開放してください。

**日本ビクター株式会社** ステレオ事業部

所在地 〒242 神奈川県大和市下鶴間甲10号1644番地 電話(0462)74-2121(代表)  
お問合せ先 ビクターインフォメーションセンター 電話 (03)580-2861  
〒100 東京都千代田区澁が関3丁目2番4号

E30530-1013B